

# FLORA KANAGAWA

## DEC. 5. 1981

## No.10

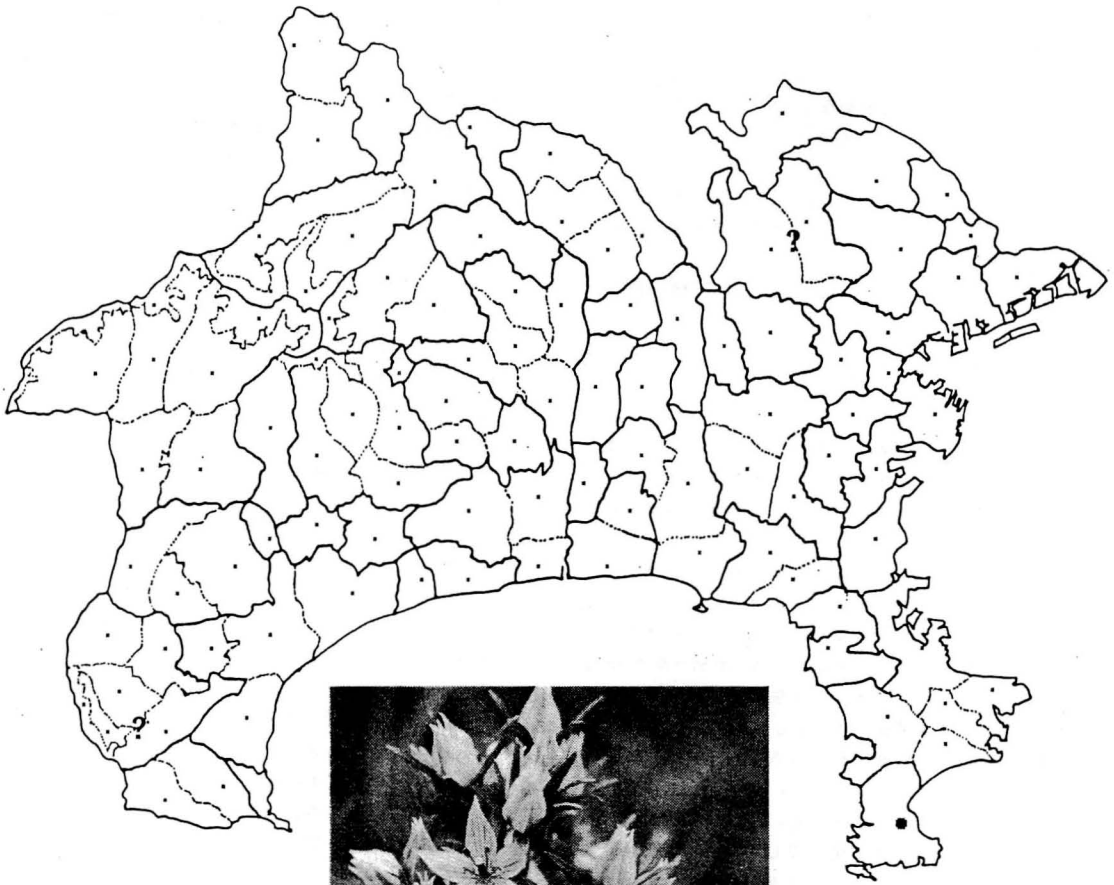
神奈川県植物誌調査会ニュース 第10号

231 横浜市中区南仲通り5-60 神奈川県立博物館内  
神奈川県植物誌調査会(振替口座 横浜 10195)  
TEL 045-201-0926

f412

ムラサキセンブリ

*Swertia pseudochinensis* Hara



### ムラサキセンブリ

ムラサキセンブリは神奈川県では稀なもので、戦前の神奈川県植物目録に都築郡(現在の緑区あたり)に記録があり、また宮代周囲の神奈川県植物目録には別に箱根が挙げてあります。何れの産地も今日確認できず、今の所標本も見



当りません。鈴木一喜先生はこれを三浦地区から発見されました。(写真も鈴木先生撮影)。

最近事務局では神奈川県植物誌の分布図作成を、マイクロコンピュータによって半自動的に行う方法を開発しました。この分布図はそれによるものですが、その詳細は次号で解説します。

## 相模原市〔SA-3〕の植物

〔SA-3〕は東京都町田市と隣接し、境川に沿った地域である。その一角の境川後背低湿地及び河岸段丘は稀に見る植物の宝庫で、正しい保護策が講じられなければならないであろう。そこに自生する高等植物は、ハナウド、ダケゼリ、ヒカゲスミレ、レンブクソウ、ツルカノコソウ、キツリフネ、セントウソウ、イチリンソウ、ニリンソウ、サラシナショウマ、ヤマブキノウ、ユリワサビ、コウモリカズラ、ナンバンハコベ、ヤマホトトギス、ヤブレガサ、キツネノカミソリ、クマガイソウ(絶滅か)、オカタンナミ、ムカゴイラクサ、オドリコソウ、ヤマネコノメ、ヤブツルアズキ、タカアザミ、アブラチャン、クロモジ、ウワミズザクラ、ジュズスゲ、アゼナルコスゲ、ヤワラスゲ、クサソテツ、イノデ、オオハナワラビ、フユノハナワラビ等、枚挙に遑がない。

しかし、近年オオバタクサの侵入、地域の運動場としての利用、宅造といった影響が拡大しつつあり、町田駅と至近距離にあることも考えあわせると、その存続は危ぶまれる。

ここに記した植物の全種類が、下流に当る大和市内の境川流域になお健在であることは甚だ興味深く、特筆に値しよう。

(大和市 齊藤 慎一郎)

## 清川村〔KI-3〕産植物短報

1981. 4. 20, 清川村七曲り付近でランヨウオイ、ミミガタテンナンショウ、マヤルソウ等の花を採集。やや離れた東沢にてトウゴクサバノオの開花品を採る。この辺はすべてダム築造に伴い水没する地なので感慨がひとしおである。

4. 29, 別所温泉より山を越えて煤ケ谷へ、イチリンソウ、ハルユキノシタ、オカオグルマなど。

5. 3, サイハイラン、エビネ、カンアオイ、オオバウマノスズクサ、アブラシバに花あり(所別~煤ケ谷)。カンアオイはランヨウアオイと混生し、昨秋開いた花が土をかぶってまだ健在であった。

5. 11, 仏果山へ宮ヶ瀬大橋から入る。ヤマブキノウ、コバノガマズミ、ササバギンラン、ギンリョウソウ、カナウツギ、マルバアオダモなど。宮ヶ瀬大橋付近のヤマブキノウ群落が湖底に沈んでしまうのは惜しい。山頂近くでマンサク、アセビ、フモトツダを彩る。稜線にカワラスゲが自生していたのにも興味をそそられた。

6. 16, 辺室沢に分け入り、オニルソウ、ヤマゴボウ、シナノガキ、ヌマダイコン、シラキ、クンカクヅル、ジャクツイバラ等を採集。また経ヶ岳への山麓道でハカタシダ、ハコネソウを採った。

6. 18, 宮ヶ瀬溪谷にてキョウタキシダ、オウレンシダ、ツルデンダ、シコクハタザオ、フジイバラなど。溪谷岩壁にハルユキノシタが実に沢山ある。

6. 21, 再び仏果山へ。コハウチワカエデ、トウゴク

ミツバツツジ、ツノハンバミなどを採る。シロヤシオ(ゴヨウツツジ)を探せど見いだせず。ミヤマタムラソウ(ナツノタムラソウのvariety)を得て狂喜。

9. 17, 煤ケ谷→三峰山→不動尻のコースをようやく暇を得て訪れる。オオヒナノウスツボ、ヤマミズ、マツカゼソウ、センボンヤリ、ヤハズハハコ、キンレイカ、タテヤマギク、シロヤシオ、ミヤマワラビ、ハクモウイノデ(ミヤマシケンダ)、エビランダその他を採集。但しエビランダは不動尻側で厚木地区(AT-4)に入ると思うが念のため株をいためぬよう注意して葉のみ若干採集しておいた。

(訂正)本誌68の「大和市の植物寸見」にキクザキイチリンソウと記したのはヤエイチリンソウの誤りゆえ訂正します。ヤエといっても二重咲品の純群落で遺伝学的にも興味津々たるところで、目下研究中です。

(大和市 齊藤 慎一郎)

## 横須賀安浦沖猿島の植物

猿島は東京湾内の小島で三笠公園の船着場から10分程で渡ることが出来ます。猿島は既に何回もの調査が行なわれているようで、筆者も本調査会顧問の故大谷茂先生の報文(1953他)を読み、ホルトノキやヤナギイチゴが生育することを知っていますが、ここにサカキカズラがある(檜山庫三1960)という報告について関心を持ちましたので、7月と9月2回渡島し調査を行いました。サカキカズラの大型葉のものはありません。

いささか植物名を列挙してこの島のフロラの一端を紹介いたします。なおオオムラサキシキブについては七島などの典型品とズレがあるようですが、筆者が横須賀市田浦で採った一品などは全く本種と考えられるので、猿島の大型葉を持つものはオオムラサキシキブとしておいてもよいのではないかと考えます。

ハチジョウススキ、ガクアジサイ、ハマサオトメカズラ、キカラスウリ、オオムラサキシキブ、エノシマキブシ(ナンバンキブシ)、ホルトノキ、イヨカズラ、ヤナギイチゴ、タンキリマメ、キクマン、ホコガタアカザ(帰化)アレチノチャヒキ(帰化)フジナデシコ、ムベ、ハチジョウナ、ヤマゴボウ(逸出、現在は見ることが少い)ヒメユズリハ、ガガイモ、オオツツラフジ、イヌクグ、ツクシメナモミ、ヒグスゲ、オニウド、マルバシヤリンバイ、など。

今回の調査は来春に行い、サカキカズラの実在も併せて確認したいと思います。(OCT., 13, 1981)

(長谷川 義人)

## 植物誌の文献コーナー

大和市教育委員会：自然学習基礎資料(大和市の植物) 1981年3月発行

本会調査員の平松義尚、齊藤慎一郎の両氏が指導者として加わっている。大和市市に自生する植物、682種類がリストアップされているほか、植生のあらし、天然記念物にもふれ、末尾に多数の植物写真が掲載されている。

県内産イチゴツナギ属 (Poa) の

見分け方

諏訪 哲夫

イネ科のイチゴツナギ属は、ヨーロッパ・アジア・北アメリカ等に広く分布し、大井(1978)は日本産のものとして23種(species)をあげている。

県内産の普通種は、7種位と考えられるが、イチゴツナギ属はイネ科の中でも分類のむずかしいグループとされているので、入手できた標本をもとに見分け方の要点を検索表の形で示すこととした。(第1表)

茎葉・根・花序などの形状も種の特長をあらわしていることは勿論だが、なかなか決め手になりにくいので、同定のためには花序をつくる小穂の観察が必要である。

イチゴツナギ属は円錐花序をつくり、一般に多数の小穂をつける。小穂は2-6個のやや扁平な小花からなり、基部に関節がある。

小穂 spikelet は小柄をもち、第一苞穎 1st glume と第二苞穎 2nd glume がある。その先に小軸 rachilla が続き、小花 floret がつく。小花は護穎 lemma, 内穎 palea, 鱗被 lodicule, 雄しべ stamen, 雌しべ pistil からなる。鱗被は花被の退化したものである。

苞穎と護穎は、中脈によって二つ折となり、その折れた部分を竜骨 keil とよぶ。竜骨には、普通白色のはりついたような軟毛(圧軟毛)がある。また護穎の基部には、綿毛状の長毛(2-3mm)をもつものがある。

内穎の背は内側にくぼみ、2竜骨がある。この竜骨に、はりついたような軟毛をもつものと短い毛の並ぶものとあり、同定に重要な特長である。

鱗被は2個、雄しべは3個ある。雄しべの葯の長さも同定に重要である。雌しべは1個で花柱2本をもつ。(第2図)

これらの観察にはルーペだけでは無理で、10倍程度の双眼解剖顕微鏡が必要である。

第1図は10倍の顕微鏡を用い、すべて同一のスケールで描いた(オオイチゴツナギは同定の確かな県博の標本によった)。

ここでとりあげた種類の花期は主に5月から7月頃までだが、スズメノカタビラの花期は3月から11月と長期にわたっている。

同定の手順としては、肉眼的特長である草の形状によりおよその見当をつけ、次に顕微鏡的な小穂・小花の特長により確定するのがよい。

倒れた茎の節から発根したり、地下茎をのばすものもあるので、標本は根からとっておくことが必要である。

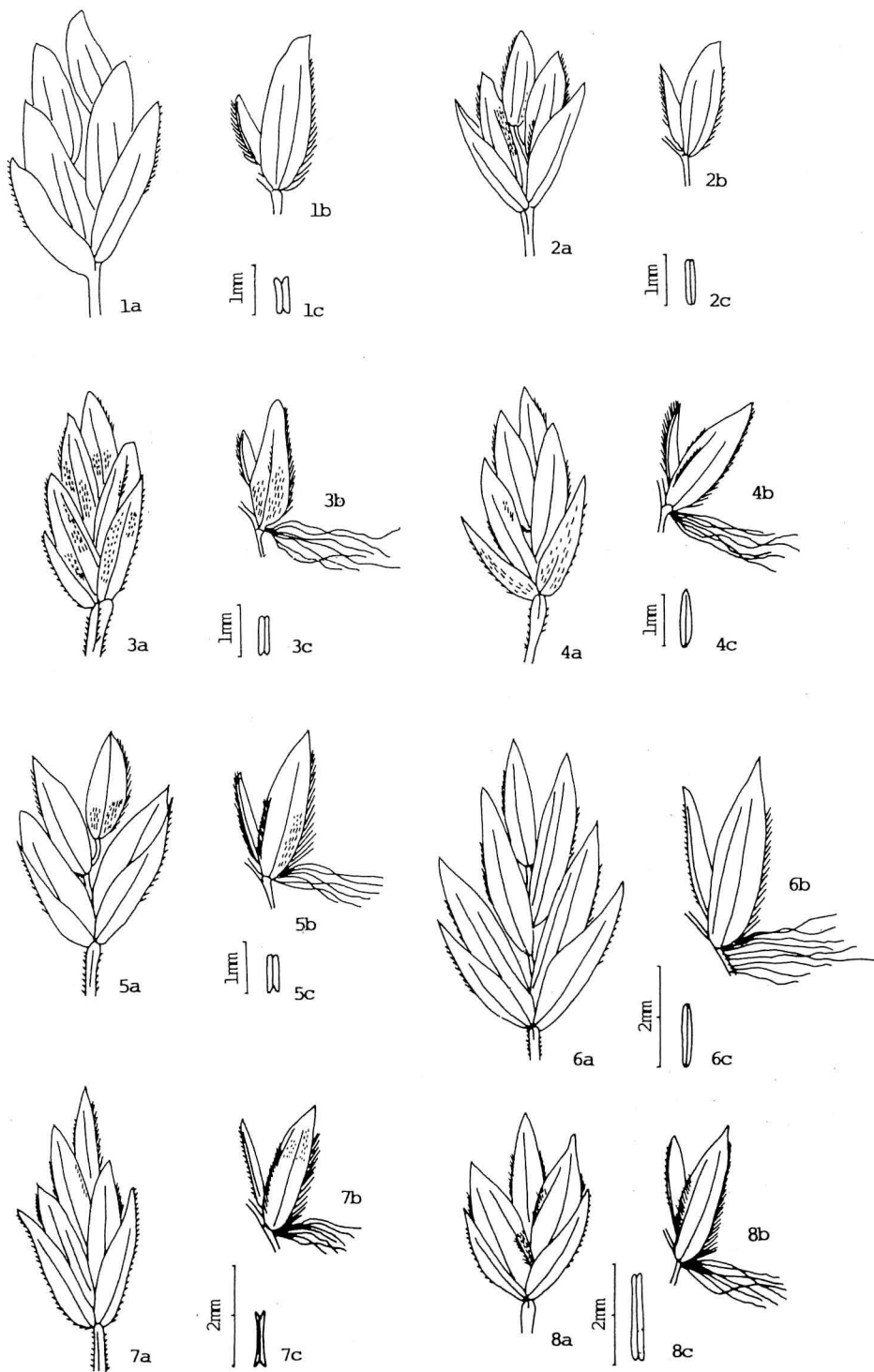
おわりに、日頃ご指導を頂きましたこの小文発表の機会を与えられた県立博物館の高橋秀男先生並びに、ナバハグサ標本の提供を頂いた平塚市博物館・浜口哲一氏に感謝いたします。

参考文献

- 1) 大井次三郎 1978 : 日本植物誌・顕花篇 : pp.82-143 : 至文堂
- 2) 北村四郎・村田源・小山鉄夫 1981 : 原色日本植物図鑑・草本編Ⅲ : pp.303-325 保育社
- 3) 杉本順一郎 1979 : 日本草本植物総検索誌・単子葉編 : pp.31-113 井上書店
- 4) 檜上庫三 1965 : 武威野の植物 : p.169 井上書店
- 5) 桑原義晴 1975-1977 : 日本イネ科植物生態図譜Ⅰ~Ⅲ : pp.25-28, 17~26, 7-9 : 北陸の植物の会

第1表 イチゴツナギ属 (Poa) の検索表

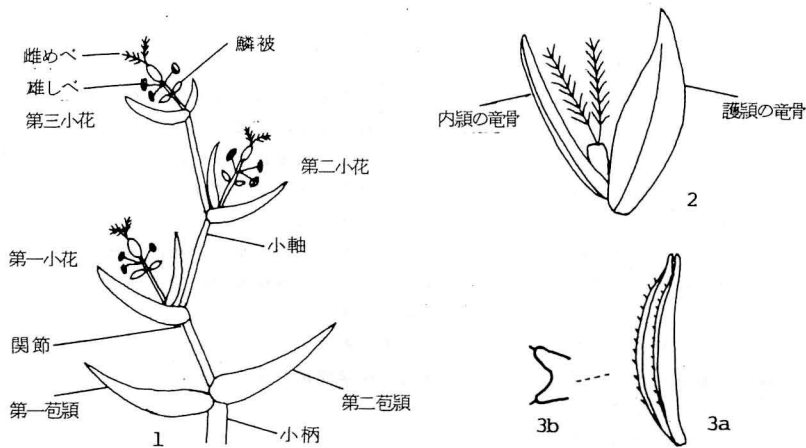
- A1. 内穎の竜骨に、はりついたような軟毛(圧軟毛)がある。葯の長さは1mm以下。植物全体が軟らかい。
  - B1. 花序の枝は平滑。護穎の基部に綿毛状の軟毛(綴毛)がない。
    - C1. 茎葉は叢生する。……………① スズメノカタビラ
    - C2. 茎が倒伏して節から発根する。……………② ツルスズメノカタビラ
  - B2. 花序の枝はざらつく。護穎の基部に綿毛状の軟毛(綴毛)がある。
    - C1. 植物全体が繊細。葉は漸尖頭、幅1.5~5mm。
      - D1. 護穎は鈍頭、側面には、はりついたような毛(圧毛)がある。……………③ ミゾイチゴツナギ
      - D2. 護穎は鋭頭、側面には毛(圧毛)がない。……………④ ヤマミゾイチゴツナギ
    - C2. 植物全体がたく軟らか。葉は急鋭尖頭、幅3~7mm。護穎は鋭頭、側面下部に、はりついたような毛(圧毛)が少しある。……………⑤ オオイチゴツナギ
- A2. 内穎の竜骨に粗い短毛が並ぶ(粗波)。葯の長さは1mm以上。護穎の基部に綿毛状の軟毛(綴毛)がある。茎(稈)は細く、基部の径3mm以下で円柱形。
  - B1. 葉舌の長さ3~8mmまれに2mm内外、鋭頭。
    - C1. 護穎の側面は無毛で平滑、5脈が明瞭。細い走出枝(地下茎)ができる。……………⑥ オオスズメノカタビラ
    - C2. 護穎の側面特に内側のへりに短い、はりついたような毛(短圧毛)がある。植物全体が硬くざらつく。……………⑦ イチゴツナギ
  - B2. 葉舌の長さ1~2mm、鈍頭。茎(稈)は平滑。走出枝(地下茎)が長く明瞭。……………⑧ ナガハグサ



第1図 主なイチゴツナギ属 (Poa) の小穂

〔図はすべて同一スケール，産地の次の表示は標本番号〕 1, スズメノカタビラ (海老名市国分) SUWA 1932). 2, ツルスズメノカタビラ (座間市桜田, SUWA1904). 3, ミヅイチゴツナギ (厚木市下荻野, SUWA1805). 4, ヤマミヅイチゴツナギ (愛川町小沢, SUWA1626). 5, オオイチゴツナギ (高知県大豊村, KPM8808). 6, オオスズメノカタビラ (座間市桜田, SUWA1586). 7, イチゴツナギ (座間市桜田, SUWA1819). 8, ナガハグサ (平塚市田村, S.ÖNUKI)。

a, 小穂 (spikelet). b, 第二小花 (2nd floret). c, 葯 (anther).



第2図 イチゴツナギ属小穂の構造

1. 小穂の模式図, 2. 小花, 3a. 内穎 3b. 内穎の断面

第2表 イチゴツナギ属の肉眼的特長

種類	形質	高さ等 (cm)	葉長 (cm)	葉幅 (mm)	葉舌 (mm)	走出枝	花序 (cm)
① スズメノカタビラ <i>Poa annua</i>		10-30 軟らかい	4-10 平滑	1.5-3	3-6 半円形	×	4-5 枝平滑 散開
② ツルスズメノカタビラ <i>P. annua</i> var. <i>reptans</i>		10-30 軟らかい	4-5 平滑	2	2-3 半円形	×	5 枝平滑 散開
③ ミゾイチゴツナギ <i>P. acroleuca</i>		30-80 繊細	10-15 ややざらつく	1.5-3	1-3 半円形 ~た円形	×	10-20 枝ざらつく 點頭・斜開
④ ヤマミゾイチゴツナギ <i>P. hisauchii</i>		50-60 やや繊細 ざらつく	10-20 ややざらつく	1-5	2-5 た円形	×	10-15 枝ざらつく 點頭・斜開
⑤ オオイチゴツナギ (カラスノカタビラ) <i>P. nipponica</i>		40-50 太く軟らか	10-20 ややざらつく	3-7	1-2 た円形	×	10-20 枝ざらつく 散開
⑥ オオスズメノカタビラ <i>P. trivialis</i>		40-100 円柱形 ややざらつく	10-20 ややざらつく	3-5	3-6 長た円形	○	10-20 枝ざらつく 散開
⑦ イチゴツナギ (ザラツキイチゴツナギ) <i>P. sphondylodes</i>		30-60 ほぼ円柱形 硬くざらつく	5-15 ざらつく	1.5-3	3-8 皮針形	×	5-15 枝ざらつく 斜開
⑧ ナガハダサ <i>P. pratensis</i>		30-80 円柱形	7-20 ほぼ平滑	2-4	1-2 鈍頭	○	8-15 枝ざらつく 斜開

< 横浜北・川崎ブロックより >

フロラ神奈川県-8で横浜北・川崎の採集標本目録 (Mar・1981) の追加, 訂正 (森茂弥氏) を行ないました。さらに次のような種が新たに採集, 追加されていますのでお知らせします。本年夏, 横浜南部 (西・中・保土ヶ谷・旭・瀬谷・戸塚) の標本のうち県立博物館に提出されていた分の整理を行いました。この標本は鶴見高校で保管しています。今回の追加リストには, この分も含めてあります。

オオベニシダ, ホッソモ, ヤナギスブタ, ミズオオバコ, ヒメノガリヤス, カリマタガヤ, アイアシ, カモノハン, モウソウチク, アワボスグ, オタルスグ, クロテンツキ, イトハナビテンツキ, コマツカサススキ, イヌクグ, ヒロハコウガイゼキショウ, アオコウガイゼキショウ, ナツズイセン, カエデドコロ, コクラン, オニノヤガラ, カテンソウ, ランヨウアオイ, アキノミチヤナギ, ホソバハマアカサ, スギモリゲイトウ, フシグロセンノウ, C-28 スイレン科 コウホネ, カザグルマ, ナンテン, クスノキ, ヤマエンゴサク, マルバコンロンソウ, ミチバタガラシ, ハマダイコン,

アメリカツノクサネム、ヤマハギ、ヤブツルアズキ、ハマエンドウ、シンジュ、シラキ、ギンセンカ、ハイアオイ、C-93アリノトウグサ科 アリノトウグサ、ヒメチドメ、ウイキョウ、タニセリモドキ、セロリー、ヤブムラサキ、ネナシカズラ、マルバアメリカアサガオ、クマツヅラ、フトボナギナタコウジュ、セイヨウオオバコ、トウオオバコ、カワラマツバ、タニギキョウ、タカオヒゴタイ、カワラハハコ、ヒメシオン、ウラギク、マメカミツレ、ハチジョウナ、ホンバチチコグサモドキ、クソニンジン。

今冬には横浜南ブロックの方々とも連絡をとりあい、両ブロック合同の採集標本目録に発展させたいと考えています。横浜・川崎ブロックの方々で採集された標本をお持ちの方、他のブロックの方でも、標本は集まったが、同定ヤリスト作りに困難を感じている方は、今後、毎月第2土曜日、午後1時より鶴見高校(TEL. 045-581-4692. 森・勝山)において採集した標本の同定会を兼ねた例会を開きます。お集まり下さい。

(鶴見高校 勝山輝男)

## 調査会参加の収穫

私知っている(?)植物の名前のほとんどは、手もふれないで、なんの抵抗もなく、耳からすんなりと入ったものばかりです。セキヤノアキチヨウジヤ、ナギナタコウジュがそうです。そこへ、アキチヨウジヤ、フトボナギナタコウジュを更に教えられると、もうお手あげです。彼我の区別がわからなくては、人様に話せたものではありません。

さいわいにも、調査会に参加の機会を得て、こうした耳学問のおろかしさを、身をもって味わいました。それから2年、やりなおしとはいかないまでも、植物にはつとめて手をふれることを心がけてきました。おかげで、たくさんのことがわかりました。そのうちのいくつかをあげますと、

### ヤマミゾンバ

ミゾンバに比べて茎にとげが少なく、節間は長い。葉は長さよりもはばの方が広く、葉柄に翼のないもので、関東地方に見られます。

### ハチジョウイノゴズチ

海岸に自生し、ほとんど無毛のタイプ。本州南部から琉球にかけて広く分布をします。

### セイヨウヤブイチゴ

56年8月、山下埠頭の貨物駅の近くのやぶで見つけました。見つけたというよりも、もっと以前からあった様子で、これを見のがしていたのです。

この仲間の分類は至難といわれています。

### エゾノタチカタバミ

山中草地に自生し、カタバミと違って走出枝を地下に出します。花の数は1~2こと少なく、長い柄の先につけます。名前にかかわらず、全国的に分布をします。

### ケカタバミ

カタバミには多少の毛が見られますが、茎に密毛のあるものをケカタバミと呼びます。海岸タイプとされ

ています。

### ハマコンギク

ノコンギクは変異に富んだ野菊です。これはノコンギクの海岸型で、葉は卵状円形で先が円く、いくぶん光沢があって鋸歯はあらく、濃紫色の花をつけます。三浦半島の特産のようです。

### ツクシメナモミ

茎や枝を分枝し、葉の下縁はふぞろいに浅く裂けます。メナモミの海岸型で、関東南部から九州にかけて分布をします。

若干の例をあげましたが、これは報告文ではありません。耳学問に対する反省の記とします。

(横須賀 山内好孝)

## 茅ヶ崎でアキザキヤツシロラン発見

10月23日、堤(CH-1)のモウソウチク林へ久しぶりに入ってみた。肌寒くなったというのに、健在な蚊の猛攻撃を受け早々に退散しようとした時、果実をつけた無葉ランをみつけた。一見して地下茎の様子からオニノヤガラのかなかまでは、と思っただけ。花茎の長さ6cmから長いもので27cmのものまで約30本を確認した。同行の斉藤益子さんも、実物を見るのは初めてだが、ヤツシロランでは、ということで標本用に3本採集した。後日、高橋秀男先生の同定によりアキザキヤツシロランとわかった。

神奈川県立博物館だより(Sept.1974)3に高橋先生のアキザキヤツシロランに関する報告文があり、県内で発見された9ヶ所の地名が記載されている。このうち先生が発見された大磯町、大井町、鎌倉市、三浦市のいずれもモウソウチクの林内で、腐葉がよく堆積し、下草が殆んど見られない所に生えていたと記されているが、茅ヶ崎でも例外ではなかった。

この他、当地区として特記する発見は、茅ヶ崎植物会会員の小沢四郎さんが行ケ谷(CH-1)の竹林のへりでオニノヤガラ(Jun.1981)を。又調査員の斉木操さんが藤沢市との境に近い芹沢(CH-1)の林耕田でミスワラビ(oct-1981)を採集された。

遅々とした調査だが、こうしてリストに追加する種類が増えていくのはうれしい。

茅ヶ崎・寒川地区調査進行状況 10月末現在  
平塚市博物館に納めた標本、CH-1——697点、CH-2——584点、SAM——571点。現在制作中及び未同定の標本が3地区合わせて約40点ある。

11月1日 茅ヶ崎市 三輪徳子

## 湘南ブロック合同調査の記録

10月11日(日)9時に小田急大森野駅前に集合。駅前より渋沢行バスに乗って菩提バス停で下車。金子順三氏の道案内で菩提峠へのハイキングコース沿いに観察調査を進める。大森野CC脇を葛葉川沿いに葛葉山荘辺まで登り、川辺で昼食。午後は菩提峠への林道をさらに1kmほど登った後、林道の東側のヒノキ林の小道を下り、桜沢橋でもとの林道に戻る。9時30分頃か

ら3時30分頃まで6時間も協力し合ってガッチリ調査。当日は降らず照らずの絶好の調査日和。県博の高橋・大場両氏に、地元のリーダー守矢淳一氏ほか各地区のベテランの面々が総勢40名といった盛況で、かなりの成果があった。

今回は、参加された調査員の採集されたものを守矢氏がその場で手ぎわよく腊葉にされた(腊葉は390種)。

当日の調査で確認された数は、大別すると下記の通りである。

シダ植物 34 裸子植物 6 双子葉植物 336  
(うち離弁花214, 合弁花122) 単子葉植物  
87 合計 463(変種, 亜種こみで)

次にリストを示すが、記録は根本があたり、一部長谷川義人氏によって追加された。(根本平)

#### 羊歯植物

- トクサ科——スギナ。
- イワヒバ科——クラマゴケ。
- ハナワラビ科——フユノハナワラビ, ナガボノハナワラビ, ナツノハナワラビ。
- ゼンマイ科——ゼンマイ。
- カニクサ科——カニクサ。
- ワラビ科——フモトシダ, ワラビ, オオバノイノモトソウ, イワガネソウ。
- オンシダ科——サイゴクイノデ, イノデ, ヤブソテツ, ヤマヤブソテツ, ハカタシダ, オクマワラビ, クマワラビ, ベニシダ, イタチシダ, オオイタチシダ, ミゾシダ, ゲジゲジシダ, ヤワラシダ, ヒメワラビ, ホシダ, ホソバシケンシダ, セイタカシケンシダ, ヘビノネゴザ, イヌワラビ, アスカイノデ。
- シシガシラ科——コモチシダ。
- チャセンシダ科——トラノオシダ。
- ウラボシ科——ノキンノブ。

#### 裸子植物

- イチイ科——カヤ。
- イヌガヤ科——イヌガヤ。
- マツ科——アカマツ。
- スギ科——スギ。
- ヒノキ科——ヒノキ, サワラ。

#### 双子葉植物〔離弁花類〕

- ドクダミ科——ドクダミ。
- センリョウ科——ヒトリシズカ。
- ヤナギ科——バッコヤナギ。
- クルミ科——オニグルミ。
- カバノキ科——イヌシデ, クマシデ, ツノハシバミ, オオバヤシヤブシ, ヤマハシノキ。
- ブナ科——シラカシ, アラカシ, コナラ, クヌギ, クリ, アカガシ, スダジイ。
- ニレ科——ケヤキ, エノキ。
- クワ科——クワクサ, ヤマクワ, コウゾ, イタビカズラ, カナムグラ。
- イラクサ科——アオミズ, カテンソウ, カラムシ, コアカソ, クサコアカソ, ムカゴイラクサ, メヤブマオ, ヤブマオ, コヤブマオ。
- ウマノズクサ科——カントウカンアオイ, ランヨウアオイ

タデ科——スイバ, エゾノギシギシ, ミズヒキ, ミチヤナギ, イシミカワ, ヤマミゾソバ, ミゾソバ, タニソバ, オオイヌタデ, ネバリタデ, ナガボハナタデ, ハナタデ, イヌタデ, イタドリ, アキノウナギツカミ。

アカザ科——シロザ, コアカザ, ケアリタソウ。

ヒユ科——イヌビユ, イノコズチ, ヒナタイノコズチ, ホソアオゲイトウ, ホナガイヌビユ。

オンロイバナ科——オンロイバナ。

ヤマゴボウ科——ヨウシュヤマゴボウ。

ツルナ科——ザクロソウ。

スベリヒユ科——スベリヒユ。

ナデシコ科——ミミナグサ, ウシハコベ, ノミノフスマ, フシグロ, フシグロセンノウ。

フサザクラ科——フサザクラ。

キンボウゲ科——クサボタン, ボタンズル, コボタンズル, センニンソウ, キツネノボタン, アキカラマツ, ヒメウズ, ヤマトリカブト, サラシナショウマ, イヌショウマ, シロバナハンショウズル, オオバショウマ, ハンショウズル。

アケビ科——アケビ, ミツバアケビ。

メギ科——イカリソウ。

ツツラフジ科——アオツツラフジ, オオツツラフジ。

モクレン科——ホオノキ, サネカズラ。

クスノキ科——クスノキ, ヤブニッケイ, タブノキ, ヤマコウバシ, クロモジ, シロダモ, カゴノキ, アブラチャン, ダンコウバイ。

ケシ科——タケニグサ, ミヤマキケマン。

アブラナ科——タネツケバナ, イヌガラシ, ヤマハタザオ。

ベンケイソウ科——コモチマンネングサ, オノマンネングサ(裁)。

ユキノシタ科——タマアジサイ, ウツギ, マルバウツギ, ユキノシタ, アカショウマ, イワボタン。

バラ科——コゴメウツギ, カノウツギ, ヤマブキ, ヤブヘビイチゴ, オヘビイチゴ, キジムシロ, ダイコンソウ, クマイチゴ, モミジイチゴ, クサイチゴ, ワレモコウ, キンミズヒキ, ノイバラ, ヤマテリハノイバラ, マメザクラ, ヤマザクラ, カマツカ, ミヤマフユイチゴ, エビガライチゴ。

マメ科——ネムノキ, キハギ, マルバハギ, ネコハギ, イタチササゲ, ヤハズソウ, マルバヤハズソウ, フジカンゾウ, ヌスビトハギ, ナンテンハギ, オオバクサフジ, ホドイモ, ノササゲ, クズ, ツルマメ, ヤブマメ, コマツナギ, フジ, ハリエンジュ, ムラサキツメクサ, シロツメクサ。

フクロソウ科——ゲンノショウコ。

カタバミ科——カタバミ。

ミカン科——サンショウ, イヌザンショウ, コクサギ, ゴシュユ(逸出)。

トウダイグサ科——コミカンソウ, ヒメミカンソウ, エノキグサ, アカメガシワ, タカトウダイ。

ウルシ科——ツタウルシ, ハゼノキ, ヌルデ。

モチノキ科——イヌツゲ, モチノキ。

ニシキギ科——ツルウメモドキ, コマユミ, マユミ, ツリバナ。



ミツバウツギ科——ミツバウツギ。

カエデ科——イロハモミジ、エンコウカエデ、オオモミジ、イタヤカエデ。

ツリフネソウ科——ツリフネソウ。

ブドウ科——エビツル、ノブドウ、ヤブガラシ。

マタタビ科——サルナシ。

ツバキ科——チャノキ、ヤブツバキ、ヒサカキ。

オトギリソウ科——キンシバイ(裁)、オトギリソウ、トモエソウ。

スマレ科——タチツボスマレ、エイザンスミレ、ケマルバスマレ。

キブシ科——キブシ。

ジンチョウゲ科——オニシバリ。

グミ科——ツルグミ。

アカバナ科——ミズタマソウ、アカバナ、チョウジタデ、イワアカバナ。

ウコギ科——タラノキ、ウド、キツタ、ヤマウコギハリギリ。

セリ科——ノチドメ、チドメグサ、ウマノミツバ、ミツバ、セントウソウ、ノダケ、セリ、シラネセンキュウ、ヤマセリ。

ミズキ科——アオキ、ハナイカダ、ミズキ、クマノミズキ、ヤマボウシ。

#### 〔合弁花類〕

ヤブコウジ科——ヤブコウジ、マンリョウ。

サクラソウ科——コナスビ、オカトラノオ。

カキノキ科——カキノキ。

エゴノキ科——エゴノキ。

モクセイ科——イボタノキ。

フジウツギ科——フジウツギ。

リンドウ科——アケボノソウ。

キョウチクトウ科——テイカカズラ。

ガガイモ科——コバノカモメヅル。

ヒルガオ科——コヒルガオ、ネナシカズラ。

ムラサキ科——ヤマルソウ、ハナイバナ、キュウリグサ、ヒレハリソウ。

クマツヅラ科——ムラサキシキブ、クサギ。

シソ科——ツルニガクサ、カキドオシ、キセウダ、アキノタムラソウ、キバナアキギリ、イヌコウジュ、ヒメジソ、クルマバナ、イヌトウバナ、トウバナ、レモンエゴマ、エゴマ、フトボナギナタコウジュ、ナギナタコウジュ、ヤマハッカ、ニガクサ、ヤマトウバナ、ジャコウソウ、オウギカズラ。

ナス科——クコ、ハダカホウズキ、イヌホウズキ、ヒヨドリジョウゴ、マルバノホロシ、イガホウズキ。

ゴマノハグサ科——トキワハゼ、アゼナ、コシオガマ、スズメノトウガラシ。

キツネノマゴ科——キツネノマゴ。

ハエドクソウ科——ハエドクソウ、ナガバハエドクソウ。

オオバコ科——オオバコ。

アカネ科——ハンカグサ、ヘクソカズラ、アカネ、ヤエムグラ、オオバノヤエムグラ、ヤマムグラ。

スイカズラ科——ニワトコ、ソクズ、ガマズミ、ツクバネウツギ、スイカズラ、ウグイスカグラ、ニシキ

ウツギ。

オミナエシ科——オトコエシ、ツルカノコソウ。

ウリ科——キカラスウリ、カラスウリ、アマチャヅル。

キキョウ科——ツリガネニンジン、ホクルブクロ、ツルニンジン、ミゾカクシ、ヤマホタルブクロ。

キク科——ハハコグサ、チチコグサモドキ、ヤブタバコ、コヤブタバコ、オオガシラソウ、カシワバハグマ、キッコウハグマ、オナモミ、オオオナモミ、ヒヨドリバナ、アキノクリソウ、ヨメナ、ハルジョオン、ヒメジオン、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ、シラヤマギク、ノコンギク、ヤマシロギク、フキ、ダントロボギク、ベニバナロボギク、モミジガサ、ヤブレガサ、トキンソウ、リュウノウギク、オトコヨモギ、ヨモギ、コメナモミ、メナモミ、タカサバロウ、アメリカセンダングサ、コセンダングサ、オケラ、ノハラアザミ、タイアザミ、オオジシバリ、イワニガナ、アキノノグシ、ヤマニガナ、ノグシ、オニノグシ、オニタビラコ、ヤクシソウ、シュウブソウ、マルバダケブキ、セイヨウタンポポ。

#### 単子葉植物

イネ科——マダケ、アズマネザサ、コヌカグサ、ノガリヤス、アツカキ、ハチク、スズタケ、シナダレスズメガヤ、カゼクサ、オヒシバ、ギョウギシバ、ネズミガヤ、トダシバ、チカラシバ、ムラサキエノコログサ、アキノエノコログサ、キンエノコロ、ヌカキビ、オオクサキビ、メヒシバ、アキメヒシバ、ナルコビエ、スズメノヒエ、ケチヂミザサ、チヂミザサ、イヌヒエ、ヒメイヌヒエ、アブラススキ、チガヤ、ススキ、オオアブラススキ、ササガヤ、アシボソ、コブナグサ、ジュズダマ、ネズミムギ、ハイコヌカグサ、オニウシノケグサ、ヒメアシボソ、メダケ、ヤダケ。

カヤツリグサ科——ヒメタグ、カワラスガナ、コゴメガヤツリ、カヤツリグサ、チャガヤツリ、タマガヤツリ、ヒンジガヤツリ、ヒデリコ、アゼテンツキ、ケスゲ、カンスゲ、ヒゴクサ、ナキリスゲ、テキリスゲ、アブラシバ。

サトイモ科——カントウマムシグサ。

ツユクサ科——ヤブミョウガ、ツユクサ、イボクサ、マルバツユクサ。

ユリ科——ホトトギス、ヤマホトトギス、オオバギボウシ、ノカンゾウ、ヤブカンゾウ、ウバユリ、ヤマユリ、ホウチャクソウ、ヤブラン、ジャノヒゲ、ナガバジャノヒゲ、シオデ、サルトリイバラ、オオバジャノヒゲ、コバノギボウシ。

ヒガンバナ科——ヒガンバナ。

ヤマノイモ科——ヤマノイモ、オニドコロ、ヒメドコロ。

アヤメ科——シャガ、ヒオウギ、ヒメヒオウギイセン。

ショウガ科——ミョウガ。

ラン科——エビネ、サイハイラン、シュンラン。